

2023 年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研 究（本年度のみ）

ふりがな	いまはし ひろし				
教員氏名	今 橋 裕	職 位	准教授	学 位	博士（学術）
アルファベット表記	IMAHASHI HIROSHI				
専門分野		技術経営論、イノベーション・マネジメント、イノベーション論			
研究課題	テーマ	日本製造業における B to B 率及び研究開発多角化と収益性の関連性分析			
	概要	日本の製造業全業種について、経済産業省の産業連関表など公的データから B to B 率という新たな指標を用いて、スマイルカーブ化の検証及び研究開発多角化の度合いと収益性との分析を実施している。			
本年度 研究業績	研究費	総額：230,000 円 内訳：個人研究費 180,000 円 / 科学研究費 円 その他 京都経済短期大学経営・情報学会研究助成金 50,000 円			
	研究テーマ	日米製造業の収益性の検証、健康経営企業への訪問プロジェクトへの参加			
	経過と到達点	日米製造業の収益性の検証については、共同研究者と共に継続中である。 健康経営企業への訪問プロジェクトは、関西地区の視察と東京での発表会に参加した。			

（1）学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文	我が国の企業における研究開発投資と設備投資と収益性についての一考察	2024年3月(予定)	単著	『京都経済短期大学論集』、第31巻、第2号	日本の企業における研究開発投資及び設備投資と収益性について、研究結果をまとめた。

⑥紀要研究 ノート、専門 誌記事等					
⑦学会での 口頭発表、討 論者（ディス カッサント）	地方創生の現地視 察 ～健康経営企 業及び地方の取組 み事例～	2023 年 9 月 6 日	単著	京都経済短期大学 経営・情報学会 研 究報告会	2023 年度健康経営訪問プロジ ェクトで、8 月に兵庫県淡路島 の株式会社パソナを視察した。 その視察内容を報告した。
	米国企業の研究開 発・設備投資と収 益性の実証分析	2023 年 5 月 20 日	共著	第 70 回 日本経営 システム学会全国 研究発表大会（場 所：東京・東海大学） （2023 年度）	米国企業の研究開発投資及び 設備投資と収益性について定 量分析を行い、収益性の検証結 果について、共同研究者が口頭 発表を実施した。
	製造企業における 研究開発投資及び 設備投資と収益の 関連性	2023 年 11 月 18 日	共著	第 71 回 日本経営 システム学会全国 研究発表大会（場 所：宮城・東北大学） （2023 年度）	日本の製造企業における研究 開発投資及び設備投資と収益 性について定量分析を行い、収 益との関連性について、ファース トオーサーとして口頭発表 を実施した。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書				
⑨単著書・ 単訳書				

(3) 外部研究資金獲得（競争的資金獲得）

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)				

⑬科学研究 助成事業（日 本学術振興 会）申請	※ 申請した場合は「申請」と記入。
----------------------------------	-------------------

２．教 育（本年度のみ）

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
	講義	イノベーション論、観光概論	生産管理論、国際経営論、経営学総論
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ、 ゼミナール特別活動	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ、 ゼミナール特別活動
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	講義中に動画を用いて視覚的に理解を深めることや、レポート課題を充実させることで、学生にとって身の回りのことと勉強を結び付けて考えてもらうように工夫をした。	
	◆ 演習科目	ゼミナール活動については、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法など、アカデミックライティングの演習・講義を重点的に行った。 また、講義時間の他に適宜、就職活動や編入学活動における相談事項に対応した。 例えば、履歴書・志望理由書の添削やアドバイス活動、面接練習の実施など、学生の将来への不安の取り除きや、各種の自己肯定感を持ってもらうために学生に寄り添ってサポートを行った。	
	実習科目		
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）	ほぼ毎週の講義最後に Google form と QR コードを用いたアンケートを実施した。 翌週にアンケート結果を受講生と共有しながら講義を進めて、学生と積極的なコミュニケーションを図った。	

（１）課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	・大阪大学大学院 工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 招へい教員（2019年5月～継続中） ・令和5年度（第23回）京都府高等学校生徒商業研究発表大会 審査委員

（2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

（3）講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	

4. 特記事項（本年度のみ）

- ・令和5年度（第23回）京都府高等学校生徒商業研究発表大会（2023年7月8日、開催場所：京都経済短期大学大講堂）にて、審査委員として高校生の発表内容について拝聴、審査及び講評を実施した。
- ・2023 健康経営＜産官学連携＞訪問プロジェクト（一般財団法人社会的健康戦略研究所・新井研究室 主催）にて、8月21日に株式会社パソナ（兵庫県・淡路島）を訪問した際に同行し、視察を実施した。
また、12月16日開催の「【2023 健康経営＜産官学連携＞訪問プロジェクト 報告会&大学生からの国際発信「健康経営」は日本初世界へ！】」（会場：千葉工業大学スカイツリー®キャンパス ソラマチ 8F（70名）、共催：一般社団法人社会的健康戦略研究所、新井研究室）」について、会場で参加、拝聴した。
- ・大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻招へい教員（2019年5月～継続中）として、11月18日開催の第71回日本経営システム学会全国研究発表大会（東北大学開催）の学生発表セッションにおいて、大阪大学大学院工学研究科上西研究室の大学院生による研究発表について、質問をした。